

**けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
第17回 企画・広報分科会
2018年度活動報告・2019年度活動計画(案)**

2019年4月23日
企画・広報分科会

○ 分科会の構成（敬称略）

（リーダー）

松本 幸則（パナソニック イノベーション戦略室 戦略企画部 主幹）

（サブリーダー）

村田 稔樹（沖電気工業 経営基盤本部 研究開発センター AI技術研究開発部
スペシャリスト）

○ 分科会の活動方針

1. 創造系活動

- ・定期的な会員への研究ニーズ調査
- ・研究ニーズに基づき、新たな産学官連携研究開発テーマを検討

2. 促進系活動

- ・各研究開発テーマ間の交流促進
- ・シンポジウムや施設見学会等イベントの企画・実施による産学官連携促進
- ・産業振興や市民生活向上の観点からのアウトプット活用方策検討などの成果活用促進

3. 整備系活動

- ・研究開発整備要望など研究活動推進

2018年度の活動報告①

1. 創造系活動

- ① WG活動費をWGに配分し、WG活動の支援を継続した。出展費用、実験費用などに活用していただいた。
- ② 8月に全会員向けにアンケートを実施。アンケートをウェブ入力とし、シンポジウムやセミナーのテーマをWebアンケートで会員にヒアリング・確認した。また、シンポジウム、セミナーの機会にアンケートを実施し、協議会活動への要望等を調査した。
- ③ シンポジウムの盛況ぶりも踏まえ、観光ビッグデータについて新テーマとして活動できないか検討。

2. 促進系活動

- ① けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2018「ビッグデータを活用した観光振興に向けて」を開催した（11月19日、スイスホテル南海大阪、大阪市）。
- ② 総会での講演会を企画、実施した（5Gをテーマに、総務省杉野氏とアンリツ安城氏による講演、5月23日、けいはんなプラザ）。
- ③ セミナー「自動翻訳におけるデータプラットフォームの構築と社会展開」を、情報提供、人材育成に向けての取り組みとして開催（3月18日、グランフロント大阪、大阪市）。
- ④ けいはんな情報通信フェア2018（10月25-27日、けいはんなプラザ）において、ブース展示をおこない、研究活動の紹介とアピールを実施。
- ⑤ ウェブページ、動画サイトの充実により、協議会活動の一層の情報発信、普及・啓発活動につとめた。
- ⑥ 情報通信の研究開発にかかわる他団体主催のシンポジウムと共催をおこなったりするなど、2件の共催、協賛イベントをおこない、他団体と共同でプレゼンスを高めるとともに、情報交換、交流をおこなった。また、引き続き、関西ICT研究交流連絡会を通じたイベント情報の交換をおこなった。

3. 整備系活動

- ① オープンラボ施設の充実に向けた活動として、研究開発テストベッドネットワークJGNなどのネットワーク施設の維持、整備をNICTで実施。
- ② オープンラボ施設の広報を継続。現在5社が利用。

2018年度の活動報告②

	2018年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2019年 1月	2月	3月
企画・広報分科会	● 第16回 分科会 (3/15)										● 第17回 分科会 (3/11)		
創造系活動					WG活動支援 ● 会員アンケート								
促進系活動	→ 総会企画準備				→ シンポジウム開催準備			→			→ セミナー開催準備		
					随時情報発信(Webサイト&イベント案内メール送付)								
整備系活動					けいはんな情報通信オープンラボの整備・運用								
					JGNなどのネットワーク施設整備・運用								
【協議会関連】	● 第18回 運営研究 部会 (5/10)				● 第17回 総会 (5/23)			● けいはんな 情報通信 フェア2018 (10/25-27)			● 協議会主催 シンポジウム (11/19)		
								● 災害・危機 管理ICTシン ポジウム 2019 (2/8)			● セミナー (3/18)		
					事務局打合せを月1回程度開催								

けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2018 開催結果

○日時：2018年11月19日(月) 13:00～17:15
 ○場所：スイスホテル南海大阪(大阪市中央区)
 ○来場者数：103名(交流会46名、アンケート回収数54)
 ○主催：けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
 ○共催：(公社)関西経済連合会、(国研)情報通信研究機構、総務省近畿総合通信局、(公財)関西文化学術研究都市推進機構
 ○概要：関西が強みを持つ分野である観光やインバウンドについて、ビッグデータの活用を通じて、関西の観光の活性化やさまざまな課題の解決につなげていくことを趣旨とし、産学公の第一線の方々よりご講演をいただきました。会員のニーズ調査の結果から本テーマとしましたが、予想以上の出席があり観光分野への関心の高さを改めて実感しました。パネルディスカッションも実施し、会場からも活発な質疑が行われました。出席者からは、各方面のバランスの取れたプログラムであった、観光ビッグデータ利活用への期待や意気込みを感じたなどの感想をいただきました。

- プログラム「ビッグデータを活用した観光振興に向けて」
- ◆開会挨拶 九津見 洋氏(当協議会理事、運営・研究部会長)
 - ◆講演「関西インバウンドの課題と展望ービッグデータの活用の方向性ー」
 稲田 義久氏(甲南大学総合研究所所長・教授、アジア太平洋研究所数量経済分析センター長)
 - ◆講演「持続可能で満足度の高い国際文化観光都市を目指して」
 西松 卓哉氏(京都市産業観光局観光MICE推進室観光戦略課長)
 - ◆講演「『住んでよし、訪れてよし』の超快適スマート京都の創出に向けて」
 島田 和幸氏(京都府商工労働観光部文化学術研究都市推進課未来都市創造担当課長)
 - ◆講演「観光ビッグデータを使ったインバウンド対策の現場」
 柏木 祐輔氏(株式会社ナイトレイ取締役COO)
 - ◆講演「インバウンド観光におけるデータ利活用の可能性」
 佐藤 彰洋氏(京都大学大学院情報学研究科数理工学専攻特定准教授、科学技術振興機構さきがけ研究員)
 - ◆パネルディスカッション
 - ◆閉会挨拶 小野寺 昭彦氏(総務省近畿総合通信局 情報通信部長)
 - ◆交流会



九津見 洋氏



稲田 義久氏



西松 卓哉氏



島田 和幸氏



柏木 祐輔氏



佐藤 彰洋氏



小野寺 昭彦氏



パネルディスカッション



講演会場



講演会場



交流会



交流会会場からの夜景

セミナー「自動翻訳におけるデータプラットフォームの構築と社会展開」開催結果

- 日時：2019年3月18(月) 14:00～16:00
- 場所：グランフロント大阪北館タワーC8階
ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC Room C01
- 来場者数：32名(アンケート回収数23)
- 概要：
観光ビッグデータの活用に向けて、多様な事業者が参画し利用できるデータプラットフォームが必要となりますが、本セミナーでは自動翻訳分野におけるデータプラットフォームの実例を紹介していただくことを目的に開催しました。講演では、自動翻訳の精度向上のためにデータを収集する翻訳バンクや音声翻訳の社会展開について詳細な内容をお話いただきました。自社サービスに利用したい、デモが多くわかりやすかったなどの感想をいただきました。

○プログラム

◆講演1「翻訳バンクの概要」

隅田 英一郎 氏(国立研究開発法人情報通信研究機構
先進的音声翻訳研究開発推進センター副センター長・
NICTフェロー)

◆講演2「多言語音声翻訳の社会展開への取り組み」

香山 健太郎 氏(国立研究開発法人情報通信研究機構
先進的音声翻訳研究開発推進センター企画室
研究マネージャー)



2018年度共催、協賛イベント

(1) けいはんな情報通信フェア2018

日時: 2018年10月25日(木)~27日(土)

場所: けいはんなプラザ、ATR

主催: けいはんな情報通信フェア実行委員会、(国研)情報通信研究機構、(株)国際電気通信基礎技術研究所、(公財)関西文化学術研究都市推進機構、(公社)関西経済連合会

協賛: オムロン(株)京阪奈イノベーションセンタ、京セラ(株)中央研究所、(株)けいはんな、(株)島津製作所基盤技術研究所、同志社大学、奈良先端科学技術大学院大学、日本電産(株)生産技術研究所、日本電信電話(株)NTTコミュニケーション科学基礎研究所、パナソニック(株)ビジネスイノベーション本部、(国研)量子科学技術研究開発機構関西光科学研究所、近畿情報通信協議会、[けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会](#)、次世代安心・安全ICTフォーラム、グローバルコミュニケーション開発推進協議会

協議会のブースを出展し、活動や成果をアピール。

(2) 災害・危機管理ICTシンポジウム2019

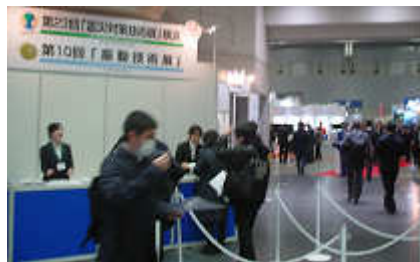
日時: 2019年2月8日(金)13:30~16:45

場所: パシフィコ横浜アネックスホール

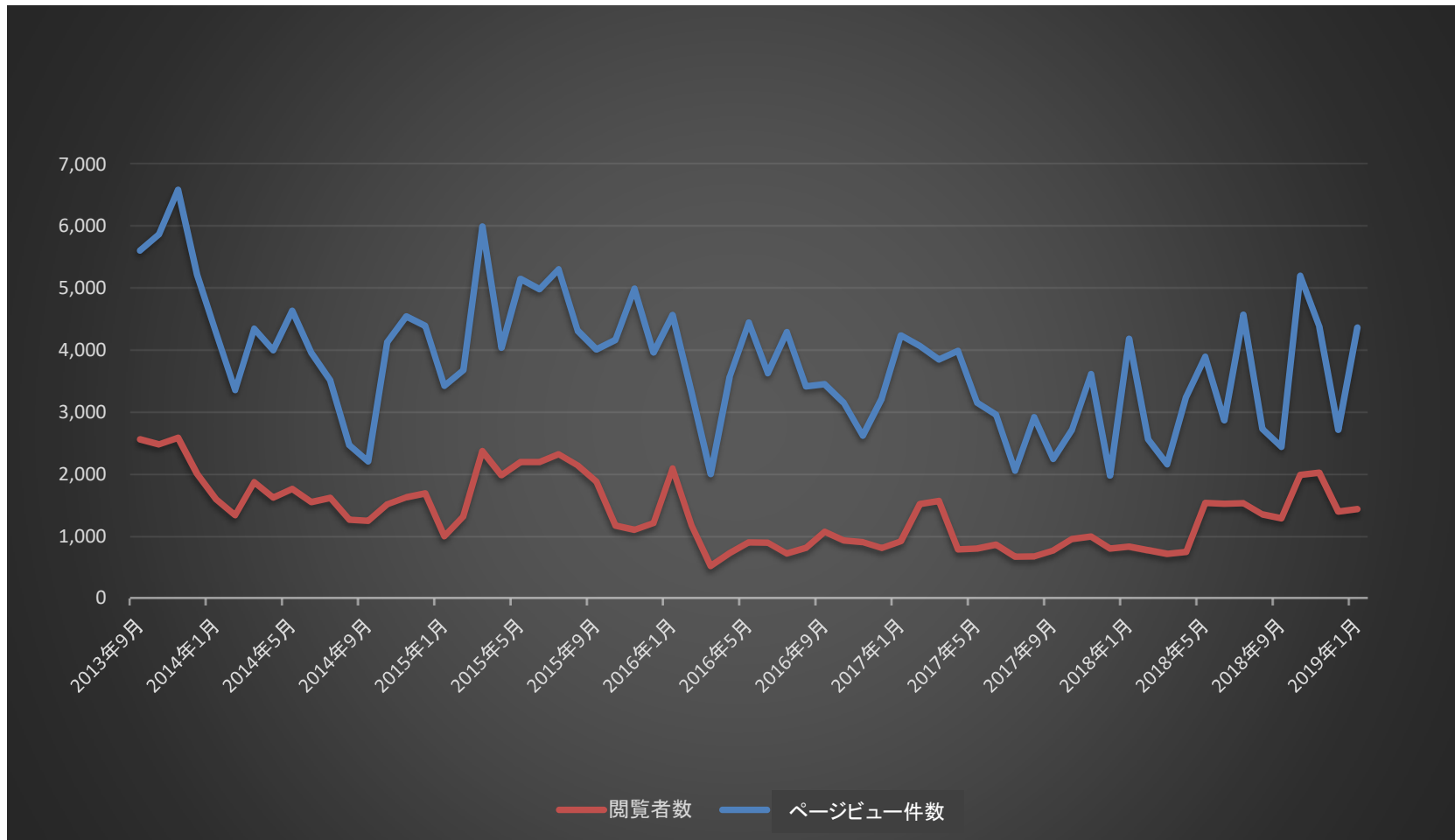
主催: (国研)情報通信研究機構、次世代安心・安全ICTフォーラム

共催: [けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会](#)

災害時の情報伝達についての有意義な講演と新規テーマの開拓に向けた活動。



協議会のウェブサイトへのアクセス数推移



一定数のアクセスを得ているが、より効果的な広報の取り組みを検討。

2019年度の活動計画①

1. 創造系活動

- ① WG活動費によるWG活動の支援を継続。
- ② 会員アンケート、ニーズ調査により、**会員が協議会に参画する意義を感じているかどうかを正しく把握する。**
- ③ **観光ビッグデータなど新規の産学官連携テーマを検討、募集する。**
- ④ **存続含め今後の協議会のあり方について方向付けを行う**（検討過程をp. 11, 12に記載）。

2. 促進系活動

- ① けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2019の開催（11月～12月予定）。
- ② 総会において、講演会を企画（6月12日、けいはんなプラザ）。
- ③ セミナー、見学会などの開催による情報提供、人材育成の実施。
- ④ けいはんな情報通信フェア2019において、ブース展示による研究活動紹介、広報活動（10月31日～11月2日、けいはんなプラザ）。
- ⑤ ウェブサイト、動画サイトを活用した協議会活動の一層の情報発信や広報・啓発活動の強化。
- ⑥ 情報通信の研究開発にかかわる他団体（グローバルコミュニケーション開発推進協議会、次世代安心・安全ICTフォーラム、AC・Net、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム、高度言語情報融合フォーラム等）と共催、協賛イベントの開催や情報交換、交流、連携促進。引き続き、関西ICT研究交流連絡会を通じた連携。
- ⑦ 地域の研究開発活動との連携を強化する。

3. 整備系活動

- ① 研究開発テストベッドネットワークJGNなどのネットワーク施設を含むオープンラボ施設の維持、運用と充実に向けた活動の実施。
- ② オープンラボ施設の広報の実施。

2019年度の活動計画②

	2019年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月	4月		
企画・広報分科会	● 第17回 分科会 (3/11)									● 第18回 分科会 (3~4月)					
創造系活動				WG活動支援											
				ニーズ調査、テーマ検討、体制整備											
促進系活動	→ 総会企画準備			→ セミナー開催準備			→ シンポジウム 開催準備			→ セミナー開催準備					
				随時情報発信(Webサイト&イベント案内メール送付)											
整備系活動				けいはんな情報通信オープンラボの整備・運用											
				JGNなどのネットワーク施設整備・運用											
【協議会関連】	● 第19回 運営研究 部会 (4/23)		● 第18回 総会 (6/12)		● セミナー (9月頃)			● けいはんな 情報通信 フェア2019 (10/31-11/2)		● 協議会主催 シンポジウム (11~12月)		● セミナー (2月頃)		● 第20回 運営研究 部会 (4月~5月)	
				事務局打合せを月1回程度開催											

■ 昨年の運営・研究部会での指摘事項

- ・協議会の成果を出すために、他分科会との連携をしっかりとやるべき。
- ・けいはんなに似たようなコンソーシアムがいくつかある。外部からわかりやすくし、効果的に活動を推進するためのあり方を検討してはどうか。
- ・従来取組の延長だけの活動でよいか。改めて協議会のあり方の議論を行うべき時期では？

■ 課題認識

- ・分科会/WGについて活動価値があるもの、ほぼ休眠状態のものが混在。
- ・新たな活動・テーマを創出できていない。
(ここ数年、農業ICT、観光ビッグデータなど新テーマ創出の検討を進めたが、事務局だけでは力量不足で新たなテーマ創出や**大きな課題設定は困難**。)
- ・分科会/WG活動のメリットが小さいので、活動を提案・牽引する**リーダーが減少**。
(得られる資金が小さい。外部交流は他の場でも出来る。NICTからの技術シーズが期待できない。)
- ・会員の半数程度しか分科会に参画していない。
- ・若手、女性の参加が少ない。
- ・方向性を再確認・再検討する時期ではないか。

■ ミッションの再確認

- ・業界団体は、標準化など含め、共通の利益が見えるが、本協議会はどうか。
- ・地域活性化。
- ・NICT技術の社会実装。
- ・大阪・関西万博が決定。

■ 活動の活性化に向けた打ち手の案

- (1) 詳細なアンケートにより、会員ニーズや要望を把握し、会員メリットを明確化。
 - ・会員にアンケート（活用度合い、存続価値、ミッション、けいはんなを知らしめる必要性など）。
 - ・WGへのアンケートの結果により(協議会がなくなると困るか、困らないか？)、WGの再編をおこなう。
- (2) 新規テーマを募集。採択テーマを準備WGとし、100万円程度の予算をつける。これにより、大きな課題設定を行い、分科会活動を牽引する新たなリーダーを発掘する。
- (3) 万博など関西の大イベントや関西の抱える課題への対応の検討。
- (4) 国の事業をとるなど資金獲得方策の検討。NICTは、総務省関連のプロジェクト情報の早期提供、総務省への施策事前打ち込みなどで貢献をおこなう。
- (5) NICT全体を含む、技術シーズを保有する組織体との連携。
- (6) 企画・広報分科会の強化。メンバーの入れ替え。